

2. 館山市の将来像

2 館山市の将来像

2-1 都市の将来像及び目標

館山市総合計画における市の将来像は、「輝く人・美しい自然 元気なまち館山」です。また、市民アンケート調査の結果では、望ましい将来のまちのイメージとして「誰もが住みやすいまち」、「観光都市」、「自然を活かしたまち」が上位を占めています。

誰もが住み良いと感じられ、域内交流・域外交流が共に活発であり、豊かな自然や歴史・文化資産、人的資源が最大限に活用されているまちの姿を想像して、都市の将来像を『住み良い暮らし 交流・資源 魅力のまち館山』とします。

【都市の将来像】

住み良い暮らし 交流・資源 魅力のまち館山

また、本市の広域的な位置付けや現況特性の分析に基づく問題点の整理と、将来のまちづくりに向けて取り組むべき課題を踏まえて、次のとおり「都市づくりの目標」を設定します。

【都市づくりの目標】

◇誰もが住み良いと感じられるまちづくり

- 歩道や情報通信基盤の整備等による、利便性の高い生活空間の形成
- 交通結節機能や商業・業務機能等を備えた中心市街地の再構築
- 都市の中心部と集落地、周辺都市との連携機能を強化する、公共交通機能の確立
- 安心、安全な生活を支える防災機能の強化

◇活発な交流による賑わいの創出、活性化を目指したまちづくり

- 広域的連携機能の強化による交流・物流の活発化
- 中心市街地における土地利用の枠組みの構築

◇豊富な資源を活かしたまちづくり

- 農業や漁業、その他地場産業の活性化を目指した拠点の形成
- 観光振興に資する自然や歴史・文化資産の利活用

※都市の将来像及び都市づくりの目標設定に関しては、資料編（1. 広域的な位置付け及び都市の現況特性の整理、2. 地区現況特性の整理、3. 上位関連計画の整理、4. 意向調査の整理、5. 都市の課題の整理）を参照してください。

2-2 都市づくりの基本的な考え方

○これまで行われてきたまちづくりを踏まえ、今ある市街地や集落地における『暮らし』の維持・増進を根底におき、集約型都市構造の形成を図る。

- ①既成市街地では、都市全体で必要な都市機能(公共施設や中心商業地等)や、それらを支える居住機能等の誘導及び市街地整備等により、都市の中心性の確保とコミュニティの維持・増進を図る
- ②集落地では、居住機能や日常生活関連機能(商店や診療所、公民館等)の誘導、必要な社会基盤整備等により、コミュニティの維持・増進を図る
- ③農地や山林は、良好な都市環境を構成するものとして保全していくことを原則とし、必要に応じて活用を図る
- ④市街地と各集落地との連携機能の向上により、一体の都市の形成を図る
- ⑤他都市との連携機能の向上により、本市及び他都市が相互に共存・共生を図る

本市においては、平坦な土地やなだらかな丘陵地に市街地や各集落が形成されており、その一つ一つが比較的コンパクトに形成されてきました。特に館山湾に面した市街地は、安房地域の中心として発展してきました。

また近年、東京湾アクアラインや館山自動車道、富津館山道路が開通したことで、接続している国道127号を軸として東京都心からのアクセス性が向上しており、観光都市としての魅力の向上に加え、南房総地域の他都市との連携を図っていく必要があります。

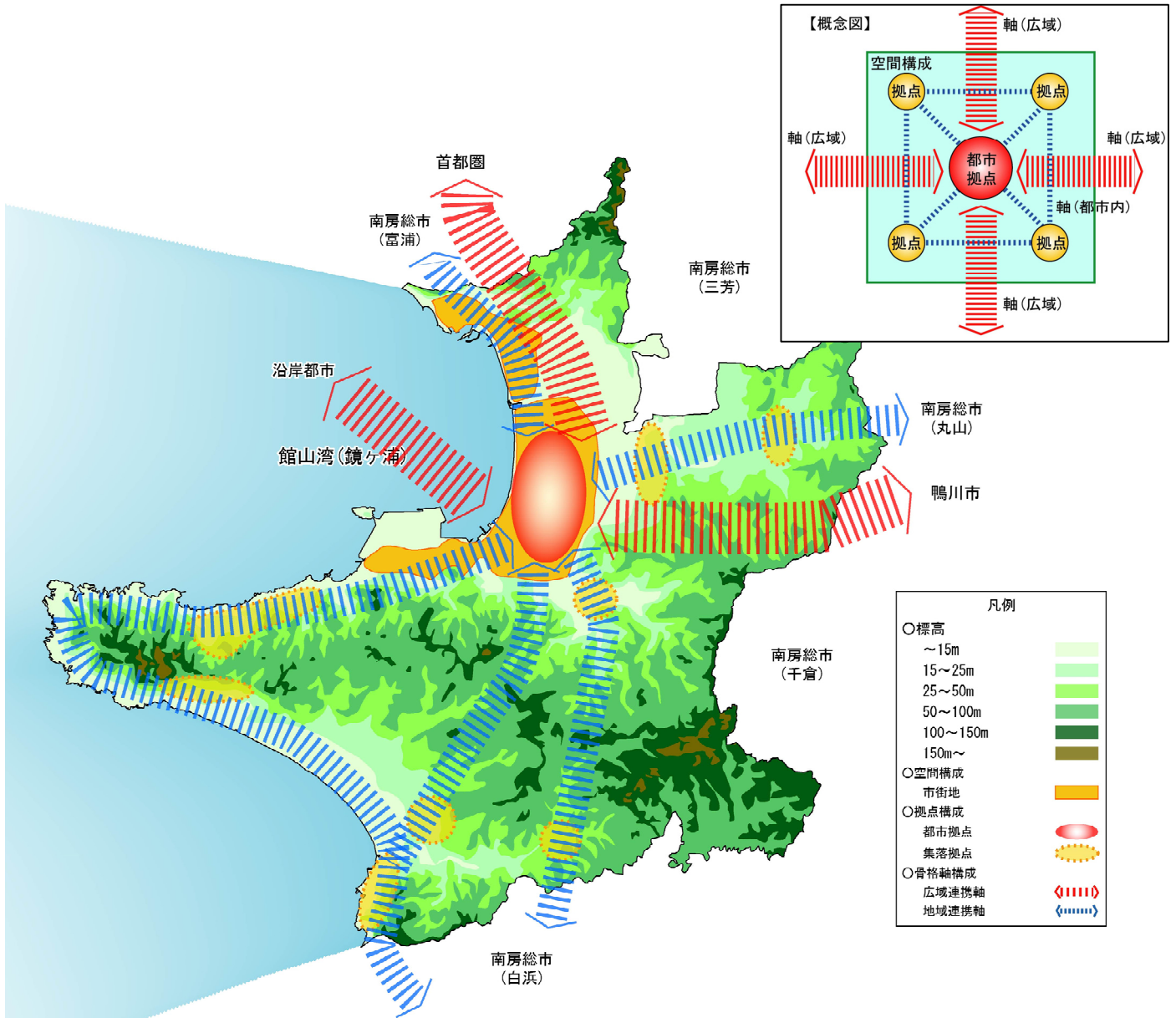
しかし、人口減少や少子・高齢化により、市街地や各集落地で地域コミュニティが衰退していくおそれがあります。また、自動車に強く依存した交通体系にあり、公共交通の維持が困難になると、自動車を運転できない高齢者等の移動が制約されるおそれがあります。さらに、国道127号沿道に住宅や商業施設等が立地し、その結果市街地の拡散傾向がみられます。

そのため、本市における今後の都市づくりの方向は、『今ある都市、今ある暮らし』の維持を根底に、集約型都市構造の形成を図り、市街地や各集落における都市機能の質の向上と必要な都市基盤の充実等によって地域コミュニティの維持・増進を図ることが必要です。

また、公共交通機能等の活性化を図り、市街地と各集落間や広域的ネットワークにおける他都市間との連携機能を強化していくことも重要です。

このような都市づくりの方向性によって、様々な人にとって利用しやすい交通環境の創出や一体の都市の形成、都市の自立性の確保、本市と他都市との共存を目指すとともに、自然環境との調和、地産地消の推進、バイオマスの利活用を含む地球温暖化対策の推進などの取組みを実践し、持続可能な地域社会を形成していくことが望まれます。

さらに、田畑や里山、海等といった地域における資源を利活用することで、市内外の交流促進による『もてなしの場・機会づくり』を進め、都市づくりから本市で進められている観光施策を支援します。



空間構成: 土地利用の観点から市域を大きく分割したもの

- 市街地では、都市基盤や生活関連施設を整備・充実させることにより、コミュニティ機能の維持・増進を図る
- 農地や山林等、本市の自然的土地利用は今後も保全していくことを前提としつつ、必要に応じて利活用を図る

拠点構成: 土地利用の構成要素を細分化したもののうち、点的な要素、あるいは点的な要素を繋いだもの

- 既存の集落地を集落拠点とし、必要な都市基盤や生活関連施設を整備・充実させることにより、コミュニティ機能の維持・増進を図る
- 館山駅を中心とした地区を都市拠点とし、交通結節点及び都市機能の中核を担う地区とする

骨格軸構成: 地域間や他の都市を結ぶもの

- 都市拠点を中心として首都圏各地や沿岸都市、鴨川市などの他都市との広域連携軸を配置し、都市拠点への人や物の流れの活性化を図る
- 都市拠点と、各集落や隣接する南房総市との地域連携軸を配置し、交流の活性化を図る。地域連携軸は、地形的制約から都市拠点を中心として放射状に展開する
- 都市内交通に関しては、公共交通機能等の活性化を図り、様々な人にとって利用しやすい交通環境を創出する

図 2-2-1 都市づくりの基本的な考え方

2-3 都市づくりの方向性（将来都市構造）

都市づくりの課題について、都市づくりの目標に照らし、前述した基本的な考え方に基
づいた都市づくりを進めるべき方向性(将来都市構造)を以下に示すように設定しました。

空間構成	市街地	○市街地の魅力を高めるため、都市基盤整備の推進や身近な緑の創出、良好な景観の形成等により、快適な生活環境の確保を図る		
	集落地等	○農地の無秩序な宅地化を抑制し、農地と住居が混在する土地利用の維持を図る		
	優良農地	○生産の場、自然的景観、防災等様々な機能を有する優良農地の維持を図る		
	森林	○保全を前提としつつ、観光施設や集落周辺の森林に関しては、必要に応じて、憩い・交流・活動の場としての利活用方策や必要な施設整備を検討する		
拠点構成	都市拠点	○館山駅周辺については、公共公益施設や交流の場等の立地を促進し、都市の中心性の維持・増進及び賑わいの創出を図る		
		○商業・業務機能の再編により、都市の中心性の維持・増進及び賑わいの創出を図る		
		○歩行系交通を中心とした道路機能の再構築を行い、市内外の人々の交流の場として活用を図る		
	地区拠点	○那古船形駅及び九重駅周辺を地区拠点と位置付け、駅を中心とした都市基盤整備を行い、良好な居住環境の創出を図る		
	集落拠点	○農業集落や漁業集落を対象に都市基盤整備や生活関連施設を充実させ、良好な居住環境を創出するとともに、コミュニティの維持・増進を図る		
	医療・福祉拠点	○既存の医療・福祉施設を中心として、周辺の歩行空間の整備や施設へ接続する公共交通の確保等を図る		
	産業拠点	○市内の工業を集積させるとともに、新たな業種への転換や高度化を促進し、若者の雇用の場の確保と産業全体の活性化を図る		
	防災拠点	○既存の施設を活用し、防災拠点の形成を図る		
	観光拠点	館山港	○多目的観光棧橋や渚の駅(仮称)の整備に併せ、市内外の人々の交流や観光拠点として魅力の増進を図ることで、都市全体及び周辺地域の活性化を図る	
		船形漁港・下原漁港・富崎漁港	○漁港機能の向上や水産物直販施設等の整備により、地域の観光漁業の拠点形成を図ることで、都市全体及び地域の活性化を図る	
		伊戸だいぼ工房周辺	○地域の観光資源を活用し、観光拠点としての魅力の向上を推進することで、都市全体及び周辺地域の活性化を図る	
		里見郷いなむら(仮称)周辺	○農産物の直売や情報提供等を行う場を整備し、観光拠点としての魅力の向上を推進することで、都市全体及び周辺地域の活性化を図る	
		野鳥の森・洲崎灯台・波左間漁港周辺	○既存施設の機能充実等により、観光拠点としての魅力の向上を推進することで、都市全体及び周辺地域の活性化を図る	
		那古観音・崖の観音(大福寺)	○歴史・文化資産を核とした観光拠点として魅力の向上を推進することで、都市全体及び周辺地域の活性化を図る	
		観光拠点・緑の拠点	城山公園周辺	○市立博物館との連携や周辺に点在する歴史・文化資産の活用を図り、人々の交流の場として、また、観光拠点としての魅力の向上を推進する
			沖ノ島公園周辺	○風致を維持し、都市環境の保全を図るとともに園内の森や磯を活用し、人々の交流の場として、また、観光拠点としての魅力の向上を推進する
緑の拠点		館山運動公園周辺	○周辺の自然環境と調和した、人々の憩い・ゆりの場として活用を促進することにより、利用者の自然環境に対する保全意識の高揚を図る	
		その他	○居住地内の緑の拠点として、近隣住民の交流の場として活用を図る	
骨格軸構成	広域連携軸	○都市拠点と近県他都市や沿岸都市、南房総地域の他都市との広域的な連携を確保し、都市全体の活性化を図る		
		○市街地縁辺部区間においては、観光都市の玄関としてふさわしく、良好な景観の形成を推進する		
	地域連携軸	○都市拠点と各集落や隣接する南房総市との連携を確保することにより、地域の骨格を形成し、活性化を支援するとともに安全・安心な生活空間の形成を図る		
		○市街地縁辺部区間においては、観光都市の玄関としてふさわしく、良好な景観の形成を推進する		
緑の軸	○市街地の背後にある森林は、保全を前提としつつ、必要に応じて、憩い・交流・活動の場としての利活用方策や必要な施設整備を検討する			
海の軸	○海岸は、保全を前提としつつ、必要に応じて歩行系ネットワーク等を形成し、市民生活へのうおいや観光資源としての魅力の向上を図る			

図 2-3-1 都市づくりの方向性(将来都市構造)

都市づくりの基本的な考え方

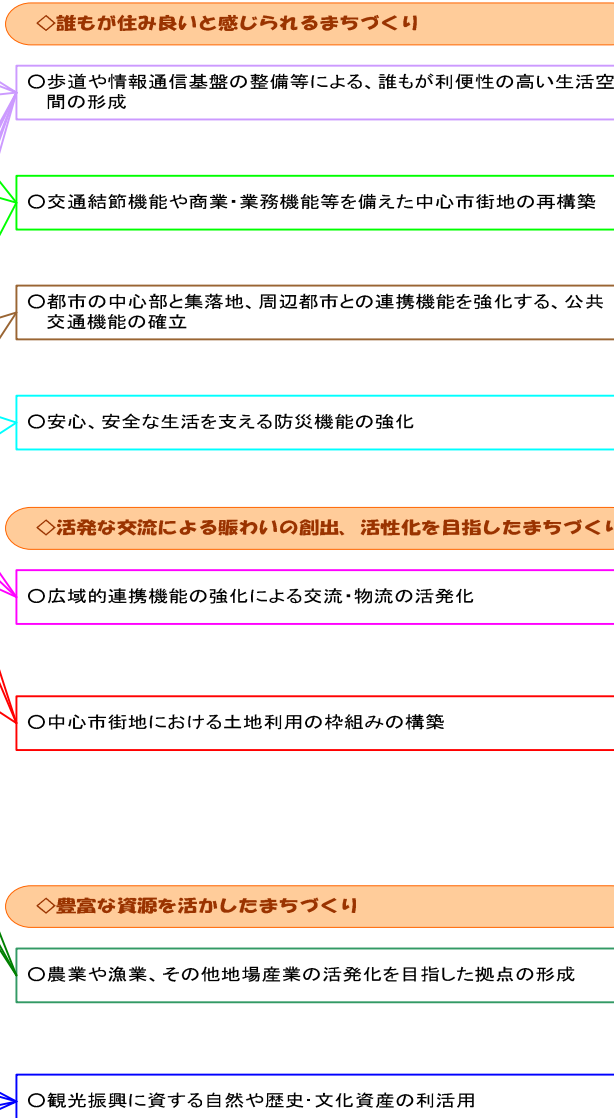
【都市づくりの方向性(将来都市構造)】

○市街地の魅力を高めるため、都市基盤整備の推進や身近な緑の創出、良好な景観の形成等により、快適な生活環境の確保を図る	市街地	空間構成	
○農地の無秩序な宅地化を抑制し、農地と住居が混在する土地利用の維持を図る	集落地等		
○生産の場、自然的景観、防災等様々な機能を有する優良農地の維持を図る	優良農地		
○保全を前提としつつ、観光施設や集落周辺の森林に関しては、必要に応じて、憩い・交流・活動の場としての利活用方策や必要な施設整備を検討する	森林		
○館山駅周辺については、公共施設や交流の場等の立地を促進し、都市の中心性の維持・増進及び賑わいの創出を図る	都市拠点	拠点構成	
○商業・業務機能の再編により、都市の中心性の維持・増進及び賑わいの創出を図る			
○歩行系交通を中心とした道路機能の再構築を行い、市内外の人々の交流の場として活用を図る	地区拠点		
○那古船形駅及び九重駅周辺を地区拠点と位置付け、駅を中心とした都市基盤整備を行い、良好な居住環境の創出を図る	集落地点		
○農業集落や漁業集落を対象に都市基盤整備や生活関連施設を充実させ、良好な居住環境を創出するとともに、コミュニティの維持・増進を図る	医療・福祉拠点		
○既存の医療・福祉施設を中心として、周辺の歩行空間の整備や施設へ接続する公共交通の確保等を図る	産業拠点		
○市内の工業を集積させるとともに、新たな業種への転換や高度化を促進し、若者の雇用の場の確保と産業全体の活性化を図る	防災拠点		
○既存の施設を活用し、防災拠点の形成を図る	観光拠点		
○多目的観光棧橋や渚の駅(仮称)の整備に併せ、市内外の人々の交流や観光拠点として魅力の増進を図ることで、都市全体及び周辺地域の活性化を図る			館山湾
○漁港機能の向上や水産物直販施設等の整備により、地域の観光漁業の拠点形成を図ることで、都市全体及び周辺地域の活性化を図る			船形漁港・下原漁港・富崎漁港
○地域の観光資源を活用し、観光拠点としての魅力の向上を推進することで、都市全体及び周辺地域の活性化を図る		伊戸たいぼ工房周辺	
○農産物の直売や情報提供等を行う場を整備し、観光拠点としての魅力の向上を推進することで、都市全体及び周辺地域の活性化を図る	里見郷いなむら(仮称)周辺		
○既存施設の機能充実等により、観光拠点としての魅力の向上を推進することで、都市全体及び周辺地域の活性化を図る	野鳥の森・洲崎灯台・波左間漁港周辺		
○歴史・文化資産を核とした観光拠点としての魅力の向上を推進することで、都市全体及び周辺地域の活性化を図る	那古観音・崖の観音(大福寺)		
○市立博物館との連携や周辺に点在する歴史・文化資産の活用を図り、人々の交流の場として、また、観光拠点としての魅力の向上を推進する	城山公園周辺	観光拠点・緑の拠点	
○風致を維持し、都市環境の保全を図るとともに園内の森や磯を活用し、人々の交流の場として、また、観光拠点としての魅力の向上を推進する	沖ノ島公園周辺		
○周辺の自然環境と調和した、人々の憩い・ゆりの場として活用を促進することにより、利用者の自然環境に対する保全意識の高揚を図る	館山運動公園周辺	緑の拠点	
○居住地内の緑の拠点として、近隣住民の交流の場として活用を図る	その他		
○都市拠点と近県他都市や沿岸都市、南房総地域の他都市との広域的な連携を確保し、都市全体の活性化を図る	広域連携軸	骨格軸構成	
○市街地縁辺部区間においては、観光都市の玄関としてふさわしく、良好な景観の形成を推進する	地域連携軸		
○都市拠点と各集落や隣接する南房総市との連携を確保することにより、地域の骨格を形成し、活性化を支援するとともに安全・安心な生活空間の形成を図る	緑の軸		
○市街地縁辺部区間においては、観光都市の玄関としてふさわしく、良好な景観の形成を推進する	海の軸		
○市街地の背後にある森林は、保全を前提としつつ、必要に応じて、憩い・交流・活動の場としての利活用方策や必要な施設整備を検討する			
○海岸は、保全を前提としつつ、必要に応じて歩行系ネットワーク等を形成し、市民生活へのうおいや観光資源としての魅力の向上を図る			

【都市の将来像】

住み良い暮らし 交流・資源 魅力のまち館山

【都市づくりの目標】



【都市づくりの課題】

土地利用上の主要課題	◆南房総の中心都市としての機能を持った、中心市街地の再構築
	◆市街地拡散の抑制、及び拡散したエリアを対象とした土地利用の枠組みの構築
	◆定住化を促進し、集落コミュニティを維持・増進するための土地利用の枠組みの構築
	◆シンボルロード整備や駅周辺整備に併せた、魅力的な中心市街地の形成
	◆高齢者や身障者等にとって、身近で魅力的な商業空間の再構築
	◆新たな産業の育成
都市基盤上の主要課題	◆優良農地の維持
	◆南房総の中心都市として機能するための、近隣市町村や他県との広域連携軸の整備
	◆中心市街地と集落間の連携をささえる都市内連携軸の強化
	◆漁港へのアクセス道路や広域連携軸の整備による流通支援
	◆特産品直販施設等への支援やまちの資産を有効活用するための観光ネットワークの整備
	◆災害時に有効に機能する輸送路・避難路のネットワーク化、及び避難施設の再配置
	◆高齢者や身障者等、誰もが安全・安心・快適に利用できる歩行空間の整備
	◆高齢者や身障者等の交通弱者が身近に利用できる利便性の高いバス網の構築と交通結節点の整備
	◆集落地におけるコミュニティの維持・増進のための既存施設の活用及び都市基盤の充実
	◆市街地や集落地における、生活関連施設の充実
	◆『守る自然』と『利活用する自然』の明確化
	◆既成市街地における、身近な緑の創出
	◆計画処理区域の見直しを含め、良好な生活環境の形成のための、必要な区域における下水道整備の推進
	◆市固有の景観を維持・向上することに加え、良好な景観を創出するための規制・誘導方策の検討
自然環境及び歴史・文化資産の保全、利活用に係わる主要課題	◆自然や歴史・文化資産を観光資源として利活用するための方策の検討

図2-3-2 都市づくりの方向性(将来都市構造)設定チャート

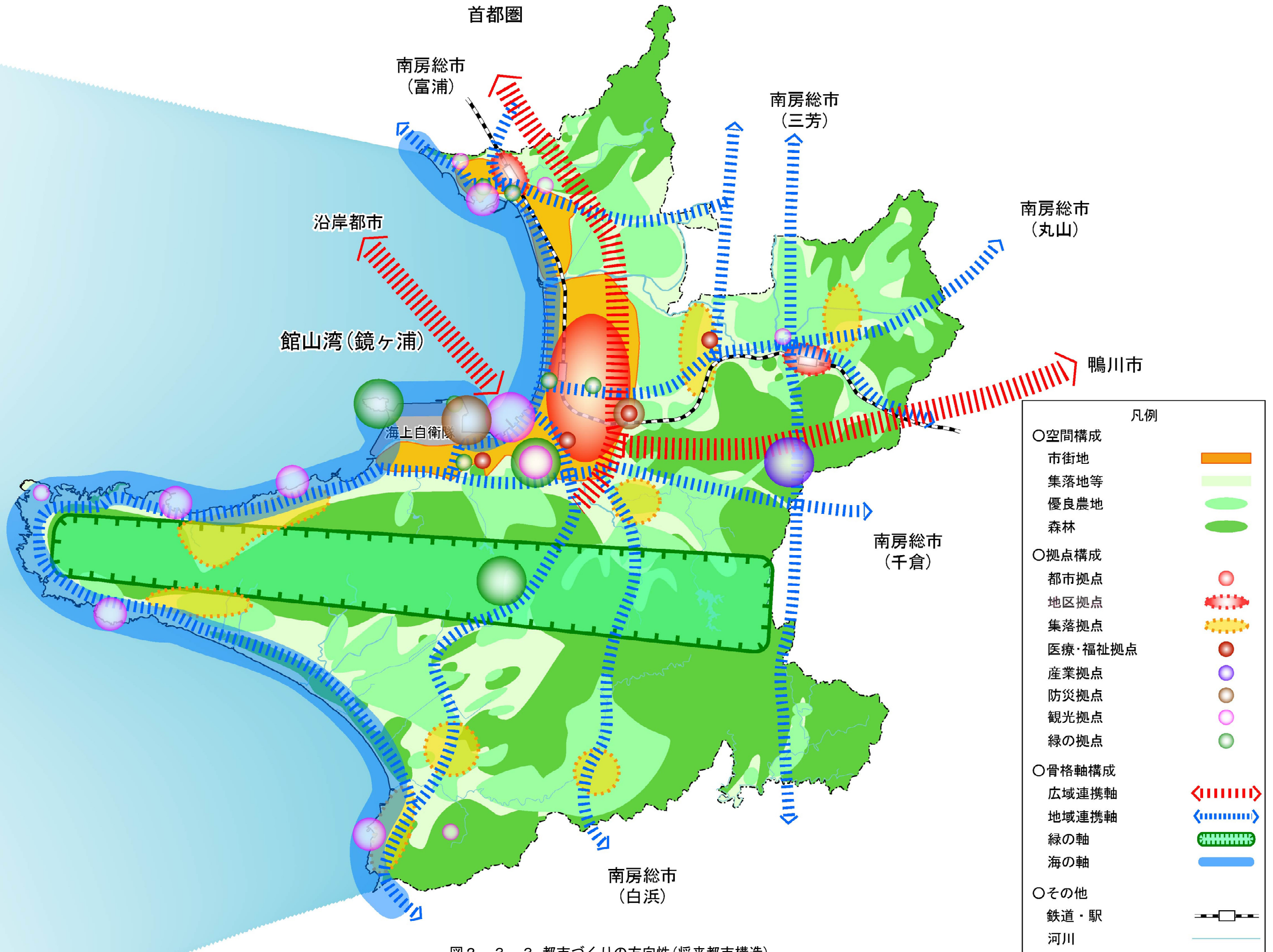


図2-3-3 都市づくりの方向性(将来都市構造)

